

- 侵襲性髄膜炎菌感染症等、重篤な感染症の原因となることがある。
- 一方で、疫学的に、国内における髄膜炎菌感染症は、必ずしも社会全体で疾病負荷が高い疾患とは言えない。
- 髄膜炎菌が流行している地域に渡航を予定している者等は、ワクチンの接種を検討することが望ましい。



今後の髄膜炎菌ワクチンについて、下記のように考えてはいかがか。

- 現段階の疫学情報を踏まえると、定期接種として接種する必要性は必ずしも高くない。
- 髄膜炎菌感染症の疫学情報等の収集を引き続き行うとともに、渡航者等に対し、ワクチンも含め情報提供を行っていく。